

ソーシャルワーク論VI

担当教員 豊田 保

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①社会福祉士及び精神保健福祉士の相談援助の対象や利用者の権利擁護について理解する。
- ②相談援助における専門職の概念および総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義や内容を理解する。
- ③相談援助における人と環境との交互作用に関する理論や様々な実践モデルを把握する。
- ④相談援助の過程と技術を把握する。
- ⑤相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ジェネリック・ソーシャルワークとスペシフィック・ソーシャルワークについて把握する。
2	人と環境の交互作用を理解するためにシステム理論について把握する。
3	一般システム理論やサイネバテックス、自己組織性について理解する。
4	相談援助の対象の概念と範囲について把握する。
5	様々な実践モデルのうち、治療モデルのアプローチについて理解する。
6	生活モデルについてソーシャルワークの視点から理解する。
7	ストレングスモデルについて理解する。
8	心理社会的アプローチについて理解する。
9	機能的アプローチについて理解する。
10	問題解決アプローチについて理解する。
11	課題中心アプローチについて理解する。
12	危機介入アプローチについて理解する。
13	行動変容アプローチについて理解する。
14	エンパワーメントアプローチについて理解する。
15	フェミニストアプローチについて理解する。

【履修上の注意事項】

社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験を受験しようとする者は、必ず履修しなければならない。
授業前の事前学習と授業後の復習を地道に行うこと（事前学習30分、事後学習30分）。

【評価方法】

期末試験によって評価する（100%）。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編 8 『相談援助の理論と方法Ⅱ』（最新版）中央法規出版。

【参考文献】

授業の進展に応じて提示する。